

「理解」、「定着」した内容を「応用」し、テストで高得点を取るには  
この夏、偏差値を10～15アップさせる具体的方法

開倫塾  
塾長 林 明夫

Q：第1回から第8回までで、「理解」と「定着」は大体わかりました。塾長のいう「理解」と「定着」だけで、「学校の定期テスト」で100点が取れますか。模擬試験で60～70の偏差値が取れますか。

A：(林明夫：以下省略)

- (1) 何がわからないかをはっきりさせて授業に臨むために、学校や開倫塾の「教科書」や「テキスト」、「問題集」を用いて徹底的に「予習」する。

「授業」の受け方。欠席、遅刻、早退、居眠り、ケータイ、徘徊<sup>はいかい</sup>、ボーッとしないこと。手を机の上に置いて先生の目を見る。先生のお話を一言も聞き逃さないと一心不乱に真剣に聞く。先生の指示通りに積極的に授業に参加する。そして、「ああ、これはこういうことなのか」と授業の内容を十分に「理解」する。

「ノート」もびっしり取る。

「授業終了後」は、その日に勉強した内容をもう一度ゆっくりと読み直す。「ああ、これはこういうことなのか」と「理解」を深める。また、授業中に勉強した「計算」や「問題」はすべて、ノートにもう一回やり直す。わからないことや間違っただけがあれば、もう一度勉強し直す。どうしてもわからなければ、学校や開倫塾の先生に聞く。

このようにして「理解」した内容をスミからスミまで身につけるために「定着のための三大練習」、つまり「音読練習」と「書き取り練習」、「計算・問題練習」を何回も何十回も、科目によっては何百回も繰り返し行う。「練習は不可能を可能にする」と確信して、この3つの練習を徹底的に行う。

わからない「ことば」や「語句」があったら、「辞書」や「用語集」、「各科目の学年別参考書」でどんどん調べる。その内容はその場で「理解」する。ノートにも必ず記録する。一度調べた「ことば」や「語句」の意味や内容を記してあるノートは、いつも1ページ目から繰り返し読む。「ことば」や「語句」とその「意味」や「内容」を忘れないようにする。

「読書による思慮深さ」を身につけるために、毎日少しずつでも読書をし、気に入った文章に出会ったら「書き抜き読書ノート」にたとえ一行でも書き抜き、折に触れて繰り返し読み直す。「新聞を読んで自分で考える力、批判的思考能力を身につける」ために、小学

生は 20 分、中学生は 40 分、高校生は 60 分以上新聞を毎日読む。地図帳で地名を確かめる。わからないことばの意味を辞書で調べる。興味のある記事は、「スクラップ・ブック」に貼りつける。家の人に断ってから前の日の新聞の記事を「ハサミ」で切り取り、「のり」で「スクラップ・ブック」に貼りつける。題をつけて感想や自分の意見も書いておく。

このような地道なコツコツとした勉強には時間がかかるので、夏休みは「眠る時間(睡眠時間)」と「生活に必要な時間(食事、トイレ、入浴、掃除、その他)」以外の時間はひたすら勉強する。午前中は家で勉強し、午後から夜にかけては開倫塾の自習室で一人静かに机に向かうのも一つのやり方です。

(2)よく思い出して頂ければ、以上のような内容を 2011 年夏塾長特別講義として、今までお話しさせて頂きました。これらをすべて忠実にやって下されば、現在の成績に全く関係なく、学校の秋に行われる定期テストで誰でも全科目 100 点が取れます。受験生の皆様は、8 月下旬に行われる模擬試験で、今よりも 5 ~ 10 以上偏差値を上げることができます。私が言った通りの勉強を 3 ~ 4 か月行えば、今の偏差値には関係なく、誰でも偏差値 60 は取れます。今、偏差値が 50 以上の人は 70 以上まで上昇します。

時間をかけさえすれば、「理解」と「定着」をコツコツやるだけで、誰でも「学校の定期テスト」で 100 点が取れます。

(3)ですから、御質問に対するお答えは「はい、取れます」です。勉強は自覚をもってやるか、やらないかです。自覚をもって、私がこれまで御説明したやり方で「理解」と「定着」にひたすら励めば、すべてのテストで必ずよい成績が取れますので、しっかりやって下さいね。

Q : 「学習の 3 段階理論」とは、勉強を 3 つの段階に分け、「うんなるほど」と「理解」した内容を「定着のための三大練習」でスミからスミまで正確に身につけた上で「応用力」を高めるものと、開倫塾で教わりました。「理解」と「定着」だけで定期テストで 100 点が取れ、模擬試験で偏差値 60 ~ 70 以上が取れるのなら、「応用」力を高める勉強はしなくてもよいのですか。

A : (1)それは素晴らしい質問ですね。(It is a very good question!!)そのような御質問が出るのを、私は待ち望んでいました。素晴らしい質問をして頂き、ありがとうございます。

(2)おっしゃる通りです。学校の教科書や開倫塾のテキスト、問題集、教材、授業中のノートを十分予習した上で、先生方の授業をしっかり受け、すべて「うんなるほど」と「理解」し、「定着のための三大練習」でスミからスミまで覚え込めば、学校の定期テストで 100 点が取れます。模擬試験で 60 ~ 70 以上の偏差値が誰でも取れます。

(3)もっと言えば、私立中学校入試や高校入試、大学入試、大学院入試などの入学試験をはじめありとあらゆる国家試験や資格試験でも、教科書と問題集、教材、授業中のノートをしっかり予習し、授業をきちんと受けた上で、スミからスミまで一語残らず覚え込めば、合格点が取れます。そのような方々は、私の知り合いにも今までの塾生にもたくさんいました。

(4)ただ、念のためにやっておいたほうがよいのが、「応用」力をつけるための勉強です。

Q : 「応用」とは何ですか。どのような勉強をすれば、応用力が身につくのですか。

A : 応用とは、「理解」、「定着」したことを「用いる」ことです。「理解」、「定着」したことを用いて、「学校の定期テストで 100 点を取ること」、「試験で合格点を取ること」、「社会

での生活に役立てること」、この3つが「応用」の内容だと私は考えます。

今回は、 と についてお話しします。

Q : 「学校の定期テストで 100 点を取る」、「試験で合格点を取る」ためにはどうしたらよいのですか。

A : (1) そのテストで過去に出た問題の 5 年分以上を、最低でも 5 回以上解くことです。

(2) 「学校の定期テスト」の問題は公開されていないので、各科目の学年別の「予想問題集」を用いる以外にありません。定期テストの範囲について、5 回分以上を 5 回以上解くことです。

(3) 入学試験や資格試験、国家試験の問題は公開されていることが多いので、5 年分以上を 5 回以上解くことです。

(4) 例えば、「大学入試センター試験」なら 15 年分以上の問題が公開されていますので、当日事情があって欠席した者のための問題も含め、30 回分を 5 回以上解くことです。

(5) 「過去に出た問題」を、私は「過去問」と名付けました。では、その「過去問」をどのように解くのか。

(6) 何回もやり直すので、「過去問」の問題集の中に答えを書き込まないこと。ノートに「解答」を書き込むこと。これは、「学力の高い人」の「常識」です。成績のよくない人は、問題集の中に答えを書き込み、赤ペンで や×をつけて採点します。これでは、その問題ができてよかった、できなかったのが残念ということになってしまいます。できた、できなかったに一喜一憂するだけで、成績の向上とは全く関係ありません。偏差値が上がることもありません。

(7) ノートに答えを書き、正解できなかった設問があったら、その「原因」、「理由」を自分の頭で徹底的に考えることです。

「理解」不足で間違えた、できなかったのなら、「教科書」や「参考書」、「辞書」、「用語集」、「授業中のノート」などを用いて、「うなるほど」と「理解」できるまで徹底的に調べることです。調べたことは、「解答」を書いた「ノート」に「書き込んでおくこと」です。

「理解」はしていたのだけれども、うろ覚えや「パターン練習」不足が原因で間違えた場合は、「音読練習」や「書き取り練習」、「計算・問題練習」をやり直すことです。

今までやったことがない、考えたこともないような問題であったために間違えたのなら、「新出問題」を研究しましょうね。

(8) このようにして、まずは過去問を 1 回ノートに丁寧に解いた後、間違えた問題についてはその原因を徹底的に調べ、調べたことを「ノート」にメモ、記録する。そして、必要な「練習」をその場でやり遂げて下さい。

(9) その日でもよいし、翌日でも O.K. ですから、2 年目の「過去問」をやる前に、1 年目の過去問をやり直して下さい。(2 回目だから、スラスラできると思います。やり直しても間違えたら、素直な気持ちでもう一回その原因を考える。「理解」が不足していたら、また調べ直す。定着不足なら、「練習」を繰り返す。)

(10)2年目の「過去問」についても、間違えた問題、設問については、その原因を徹底的に調べ、調べた内容は「ノート」にメモ、記録。必要な練習をする。

(11)3年目の「過去問」をやる前に、1年目と2年目の「過去問」を同じようにやり直す。

(12)このようにして過去問を5年分以上やり直すことが、「応用」力を身につけるコツと言えます。

Q：本当にこんなことをやった人がいるのですか。信じられません。

A：(1)「過去問5年分を5回以上ノートにやり直す」。これは、知っている人は知っていて、知らない人は知らない勉強の方法ですから、驚く人も多いと思います。

(2)ただ、この勉強の仕方は、私が32年前に開倫塾を創業したときから一貫して塾生の皆様にお伝えし続けてきた勉強の仕方です。私が25年間一人で担当しているCRTラジオ栃木放送の「開倫塾の時間」という日本でただ一つの番組でも、何十回も何百回もお伝えしている効果の上がる勉強の仕方です。せっかく、皆様は現在開倫塾で勉強しておられるのですから、「開倫塾の塾生」としての自覚をもって、この「応用」力を身につける勉強の方法を身につけて下さいね。

(3)ちなみに、なぜその問題ができなかったのか、間違った答えになるのかの原因を考えて、その対策をやり尽くすことを、「<sup>ごとうぶんせき</sup>誤答分析」と私は名付けました。

(4)また、科目ごとの「間違いノート」と称する「ノート」に、自分でできなかった問題と解答を書き写して何回もやり直すことを、「間違いノートづくり」と開倫塾では呼びます。皆様も、「間違いノート」を活用して「間違いゼロ」を果たし、すべての問題に自信をもって下さいね。

Q：驚きました。開倫塾では、いろいろな取り組みを塾生に紹介し、多くの先輩が実行していたのですね。最後に一言どうぞ。

A：次は、いよいよこの文章をお読みの皆様の番です。私がまとめ上げた開倫塾の「学習の三段階理論」の<sup>しんずい</sup>神髄を、私は長い長い文章を書き、皆様にはそれを時間をとってお読み頂き、この夏も、この塾長特別講義で今までお伝えしてきましたので、少しずつ「理解」して頂いたことと思います。

昨年の夏は、この考え方をういて偏差値を15以上上昇させた方がたくさんいらっしゃいました。

もう一度申し上げます。次は皆様の出番、皆様が主役です。秋の定期テストで100点を取る、8月下旬からの模擬試験で今の偏差値を10～15以上アップさせる、また、60～70以上の偏差値を取る決意を固めた人は、第1回分からもう一度繰り返し読み直し、1つでもよいですから実行に移して下さい。

では、今日はこの辺で。

以上